

## 中期プログラム：「哲学としての現代中国」

### 概要

このプログラムでは、現代中国を哲学のトポスとして取り上げ、それを三つの側面から論じる。

第一に、ここ数十年の間に大きく広がってきた「儒教復興」という現象を、宗教と哲学の関係から考える。そのためには、現地での調査に加え、「儒教復興」の言説分析を行う。

第二に、一九八〇年代から現在に至るまで、中国の思想界において如何なる哲学的ディスコースが登場してきたのかを考える。それは、いわゆる現代西洋哲学の輸入による「文化熱」から始まり、現在の「カール・シュミット熱」に至るまでの言説分析になる。

一見するとまったく対照的な以上の二つは、一見するとまったく対照的な哲学言説に見えるが、それらは根底においては共通している。どちらも、「中国における古典回帰 Classical Turn in China」という同じ運動に属しているからだ。

したがって、第三に、古典回帰という側面から、哲学としての現代中国を論じる必要がある。その際、日本、ヨーロッパ、米国等々のコンテキストで生じている、哲学における古典回帰との比較が重要になる。

### スケジュール（予定）

2007年度 冬学期	9月 10月～3月 11月（3月） 1月（3月）	現地調査（北京、曲阜） 講義：共生のための国際哲学基礎論 IV に相当 「哲学としての現代中国」（中島隆博 / 於東京大学） ワークショップ：共生のための国際哲学演習 VI に相当 （PD・RA による発表 / 於 NYU） シンポジウム＋演習：共生のための国際哲学演習 VIII に相当 シンポジウム「儒教復興と哲学の中国」（於東京大学） 演習：（中島隆博 / 於東京大学）
2008年度 夏学期	4月～9月 6月（7月）	講義：共生のための国際哲学特別研究 I 「Classical Turn in China」 （中島隆博＋Joël Thoraval / 於東京大学） ワークショップ＋演習：共生のための国際哲学演習 I 「Classical Turn in China」 （PD・RA による発表）
2008年度 冬学期	10月～3月 3月 （一週間集中）	講義：共生のための国際哲学基礎論 II 「哲学としての現代中国」 （中島隆博 / 於東京大学） 講義：共生のための国際哲学特別研究 II（於中国：詳細は未定） ワークショップ＋演習：共生のための国際哲学演習 II 「書院運動と哲学」 （於中国：詳細は未定）（PD・RA による発表）
2009年度 夏学期	4月～9月 6月（7月） （一週間集中）	講義：共生のための国際哲学基礎論 I 「中国、哲学、モダニズム」 （中島隆博 / 於東京大学） ワークショップ＋演習：共生のための国際哲学演習 III 「中国哲学から見た東アジアのモダニティ」 （中島隆博＋Zhang Xudong / 於 NYU） （PD・RA による発表）
2009年度 冬学期	9月 （一週間集中） 3月 （一週間集中）	ワークショップ＋演習：共生のための国際哲学演習 IV 「哲学としての現代中国」 （中島隆博＋Joël Thoraval＋Anne Cheng-Wang / 於 EHESS） （PD・RA による発表） シンポジウム＋講義：共生のための国際哲学特別研究 IV 「哲学の開く中国というトポス」 （於東京大学） 2010年度に出版